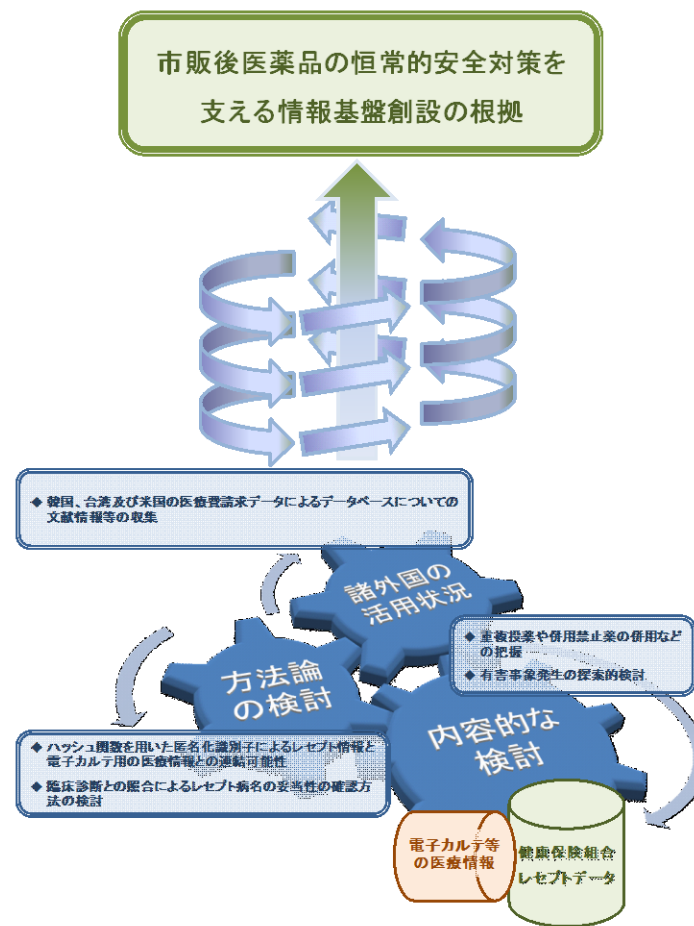


厚生労働科学研究(平成21年度~23年度)

レセプト等を利用した薬剤疫学データベース作成に関する研究

研究組織

- 藤田利治(情報・システム研究機構 統計数理研究所)
- 岡本悦司(国立保健医療科学院・経営科学部)
- 折井孝男(NTT東日本関東病院)
- 久保田潔(東京大学大学院医学系研究科・薬剤疫学)
- 小出大介(東京大学大学院医学系研究科・臨床疫学システム講座)
- 望月真弓(慶應義塾大学・薬学部)
- 山口拓洋(東京大学大学院医学系研究科・臨床試験データ管理学)
- 木村真也(日本医療データセンター)
- 酒井弘憲(日本製薬工業協会 統計・DM部会)
- 小宮山靖(日本製薬工業協会 統計・DM部会)
- 藤井陽介(情報・システム研究機構 統計数理研究所)



レセプト等を利用した薬剤疫学データベース作成

目標

- 医薬品の市販後安全対策へのレセプトの活用可能性を実際のデータを用いて具体的に検討し、データベース作成での留意点等を提示する。
- 本研究による実際のレセプトデータと電子カルテ等の医療情報などに基づいた検討から、医薬品の重複投薬、併用禁止薬の併用などの実態、有害事象発生の把握可能性、匿名化された状態でのレセプトデータと医療情報との連結可能性、臨床診断との照合によるレセプト病名の妥当性の確認方法などが具体的に明らかになる。
- 市販後医薬品の恒常的安全対策を支える情報基盤創設の根拠を提供し、医薬品の安全性・有効性の確保に貢献する。

研究計画

内容的な検討:

- 使用実態の把握
 - ・ 重複投薬
 - ・ 併用禁止薬の併用
- 医薬品と有害事象の関連についての探索的検討

方法論の検討

- 電子カルテ等の医療情報との連結可能性
 - ・ ハッシュ関数を用いた匿名化識別子による連結
- レセプト病名の妥当性研究
 - ・ レセプト病名の医療記録との照合による妥当性研究
 - ・ レセプト上の補助情報(臨床検査実施や治療薬剤使用など)の追加による利用可能性の改善の検討

諸外国の活用状況等の情報収集

- レセプトDBが既に稼働して実績をあげている韓国と台湾
- 米国の医療費請求データに基づく i3 Aperio など